会議の概要

会議名称	令和８年度　第３回能代市活力ある高齢化推進委員会
開催日時	令和８年１０月２６日（月）　午後６時４５分～
開催場所	能代市役所　会議室９・１０
出席委員	１３名
事務局	１０名

委員長挨拶

案件

（１）認知症推進計画について

発言者	質疑内容
委員	民生委員の立場から。認知症を抱えている人のことについて、地域の人に知ってほしいという気持ちがある。また、地域でも認知症の人がいたら手を差し伸べたいという気持ちも持っている思う。課題としては、どの人が認知症で、どのような症状を抱えているのかがわからないこと。知っていることで、万が一徘徊等で行方不明になった場合には助けられると思う。認知症の啓発や周知についてご検討いただきたい。 民生委員の活用について。私たち民生委員は、在宅高齢者調査として年１回高齢者宅を訪問する。その際、もの忘れ等について相談されることもある。その場合、私たちは地域包括支援センターに報告すべきか。 民生委員としても、認知症の症状についての知識が必要と思う。できれば各地区の民生委員児童委員協議会の定例会等にお越しいただき、対処方法等を学ぶ機会を与えていただければ大変ありがたい。
事務局	民生委員の取組には感謝している。認知症については、自分や家族の状況を知って欲しい人がいる一方で、知られたくない人もいる。難しい課題であるがどう取り組むべきか検討していきたい。 認知症のことについては、地域包括支援センターへ報告していただきたい。 日頃の民生委員活動で、認知症の人に対する良い事例や好ましくない事例があったら一緒に勉強させていただきたいので、お知らせいただきたい。

（２）計画の素案（たたき台）について

発言者	質疑内容
委員	介護人材不足について。「外国人の雇用」では、介護に限らず多くの職種において人材不足と言われているが、外国人を雇用している介護事業所の情報やノウハウ等を市を通じて各事業所へ共有しているか。 介護人材実態調査では、離職した理由で一番多いのは「賃金」ではなく、「職員同士の人間関係」や「自分の体力、体調面の問題」である一方、介護事業所では「人材不足解消に必要と思う取組」は「賃金・労働環境時間等の労働条件の改善」、「資格取得やスキル向上の研修参加の推奨」となっている。これらから、労働者が求めているものと事業所の取組にズレがある気がする。うまく擦り合わせられたら良い。
事務局	外国人の雇用について、市の労働担当部署では事業所に情報提供を行っている。また、海外で介護を学んでいる学校を視察し、どのように外国人が介護について学んでいるのかの研修を行っている事業所もある。その情報から、日本語が上手で情熱を持って取り組んでいる人が多いことは把握しているが、外国人を雇用する事業所側の負担もあるため、なかなか雇用までには至らないということも伺ってる。
委員	近所の人が、間もなく運転免許証を返納するため買い物が大変になると話されていた。このような人がこれからたくさん増えてくると思う。買い物や通院に対する移動手段の確保について、もっと組織的に考えていく必要があるのでは。
事務局	高齢者の問題だけではなく、公共交通全体の問題として捉える必要がある。引き続き関係機関、関係部署等と連携を取りながら取り組みたい。
委員	自治会の立場から感想として。自治会連合会の会議などを含め、様々な場で「地域の支え合い」や「地域力」の話題になる。我々自治会・町内会が頑張っていかなければいけない時代に入っており、自治会長として、今後「地域力」はどうなっていくのかと問われているような感じがする。具体的に地域力をどう高めるか、住民の横のつながりをどうするのか、お互いに声をかけ合って生活していこうなど、言葉としては簡単に使っているものの現実はそう簡単なことではない。しかし努力しなければいけない。
事務局	様々な手を講じたとしても、年々地域力、地域の支え合いは難しくなっていくものと感じている。そうした中、一部の地区民生委員児童委員協議会では「高齢者お楽しみ会」に合わせて「敬老会」を実施していただいている。普段顔を合わせない人たちが交流することでつながりが生まれ、次は何の活動をしてみようかなど形に表れている地域もある。また、敬老会をきっかけに「除排雪の取組を考えてみよう」と報告をいただいた例もある。一部の地域の取組から少しずつでも全市に広がっていければ良いと考えながら取り組んでいる。